



すばらしかった文化発表会

副校長 大熊 恵子

10月27日(土)に練馬文化センターで文化発表会が行われました。当日は、270名を超す保護者や地域の方々にご来場いただきました。ありがとうございました。心より感謝いたします。

文化発表会当日は、一日を通してどの発表も気持ちの入った素晴らしい発表でした。感動しました。『当日までの取組がしっかりできていたことが、文化発表会の成功につながっている』と感じました。

海外派遣帰国報告は、妥協することなく、映像の仕上げとスピーチの練習をして臨んでいました。わかりやすく、みんなが行きたくくなるような発表でした。吹奏楽部の演奏は、みんなに楽しんでもらおうというサービス精神たっぷりのステージを、部員全員で考えて集中して練習し、舞台と客席が一体となる発表となりました。

全校生徒が参加した合唱コンクールは、しっかりとした事前の取組に加えて、「勝負にかける気合」がたっぷりの、気持ちの入った素晴らしい発表だと感じました。舞台上で歌う全クラスの演奏から、「みんなの気持ちを一つにして一生懸命歌うぞ!」という強い意志や、「この2週間、集中的に練習を頑張ってきた成果を十分に出すぞ!」という熱い思いが感じられました。

全員が指揮者を見つめる瞬間は、緊張が頂点に達し、もしかしたら頭の中が真っ白だったかもしれません。練習の時にはいつも聞こえていた隣の人の声がほとんど聞こえず、自分一人が歌っているような感覚になった人もいることでしょう。でも、みんなの演奏は、そういうことを全く感じさせない、気合の入った演奏でした。素晴らしかった。

練習を始めたばかりのころの1年生の歌は、どのパートの旋律もたよりなく、「合唱コンクール当日に間に合うのかしら?」と心配しました。2年生の先生からは、「なかなか声のボリュームが出てこなくて、苦労しています。」という声を聞きました。「3年生は難しい曲に挑戦していますが、修学旅行の週は音楽の授業がなかったので、音取りが思うように進まず大変でした。」と音楽科の先生から聞きました。

練習が2週間目に入るとバラバラだったパートの声が一つになって声量が増してきたり、ハーモニーがきれいになったり、歌詞もしっかり覚えてきた様子が、職員室のあちらこちらの会話から聞こえてきました。強弱をつけたり、歌詞の意味に合わせて曲想をつけたり、クラスみんなで本番に向かって仕上げていく様子も伝わってきました。音楽の授業や放課後練習で先生からもらった貴重なアドバイスや、指揮者や伴奏者、選曲委員や審査員、パートリーダーなどの人たちから出してもらったダメ出しを、みんなで協力して克服してきたから、あの緊張感のある素晴らしい演奏ができたのだと思いました。



3年生 学年合唱

合唱コンクールへの取組は、本番に向けて途切れることなくクレシェンドしていけたらいいですが、取組の途中で思うようにならず不協和音が聞こえてきたということが、どのクラスでも大なり小なりあったと思います。話し合い、お互いを理解し、思いやりの心を持ち、気持ちを新たに練習に取り組む活動の中で、どのクラスも団結力を高めてきたはずです。こうした事前の取組と当日の本番演奏、そしてお互いの演奏を鑑賞する態度などをすべて含めて、私はとても素晴らしかったと感じたし、さすが、豊玉第二中学校の生徒だと思いました。本当によく頑張りました。

来年度も、同じホールでの合唱コンクールです。ホールは体育館と違いかなり弱い音でも響きます。強くしっかりした声は十分出ているので、一年間かけてしっとりした表現や弱い音の表現の仕方も積極的に学び、来年はさらに豊かな表現の発表になるといいと思っています。

最後に、このすばらしい「文化発表会」を陰になり、日向になって運営してくれた文化発表会実行委員の皆さんに、感謝の気持ちをもって拍手したいと思います。「ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。」